

## 2月25日～3月7日

### ボイジャーオブザシース 熱帯島嶼クルーズ迷走記(速報)

石田純郎

1. 当初のクルーズはシドニー発、終日航海日 2 日後、ニューカレドニアとバヌアツ共和国の合わせて 6 島を回るものであった。
2. 2 月 22 日に旅行代理店を通じて、コースの変更の連絡があり、4 島クルーズとなった。
3. 25 日のチェックイン時に日本人(香港人、韓国人も?)だけ、診察があった。最大 3 時間待たされた。  
大陸中国人は乗船拒否した模様。日本人は個人客 2 名、2 名、3 名、団体客 3 名(直前に 10 名がキャンセル)と添乗員。合計 11 名。
4. 28 日の午後 4 時、カレドニアのヌメア停泊中に下記のアナウンスと、数時間遅れで 3 訂目の旅程が配布された。  
乗務員に 3 名のインフルエンザAがでて、バヌアツ共和国が入国を拒否したと。私はインフルエンザAと新型肺炎はまったく別の病気で混同するとは何事かと手紙を書いたら、ワインが届いたが、拒否したのはバヌアツ政府と責任転嫁。
5. 結局知らされなかったが、数名の新型肺炎疑似患者がいた模様。8 階の 1 室は下士官が廊下で 24 時間監視し、外出禁止としていた。  
6 階には新聞を内部に取り込まず、終日 not disturbed の部屋があった。両者はヌメアから終日航海二日後、ニュージーランドのタウランガで下船した模様。
6. ヌメアから終日航海 2 日間、ニュージーランドのタウランガとベイ・オブ・アイランドで各 1 日、さらに終日航海 2 日間でオーストラリアのエーデン。
7. 旅程変更について、当方にも相当の不満があったが、旅客の大半のオーストラリア人とニュージーランド人にとっては、日本人どころではなかっただろう。
8. ニュージーランドの入国に際しては、オーストラリア人を除き、e ビザ取得が必須となっており、事務官の助言でPCで取得した。手数料 31ドルは船会社が戻してきた。そこまでしながら、ニュージーランド入域に際し、ビザも旅券もチェックなし。それ以外に 6%ほどの払い戻しがあった。
9. ショーは芸人の不足からか、つまらないものが多かった。
10. シドニー上陸の際は自分で荷物を転がすセルフ上陸方法への誘導が露骨にあった。

11. 入国時の健康チェックは形式のみ。
12. 行きの羽田・シドニーの全日空はほぼ満席、帰りは3割。
13. 行きの岡山・羽田の全日空は8割、帰りは1割。